

歯科衛生士が行う一歩先のデブライドメント

齋藤裕子
けやき歯科クリニック

抄録

近年、歯周初期治療やメンテナンスにおいてマイクロスコープを用いた拡大視野下での処置が試みられています。

一般的に、マイクロスコープの使用頻度が最も多いのはスケーリング・ルートプレーニングだと思います。歯周ポケットにおけるデブライドメントの効果は、深さが増すと難しくなるという傾向があります。マイクロスコープを使用しながらのデブライドメントは可能ですが、もちろん全てが見えるわけではありません。しかし、明視下で除去できる範囲が広がるのは事実で大切なのは残留物がないかの確認作業だと考えています。私自身、裸眼で施術した後に術野をマイクロスコープで確認するところからスタートしました。手指の感覚だけで行った後に顕微鏡で確認することで感覚のトレーニングにも役立ったと感じています。顕微鏡のハンドリングに慣れるまでには多少の時間がかかりますが、拡大視野下で行ったデブライドメントの方が低侵襲に処置を進められることもあり圧倒的に有効的だと感じています。

本講演では院内の臨床で得られたデータをご紹介しますとともに、顕微鏡を衛生士業務でどのように使うと効果的なのかをお伝えします。

略歴

2007年 日本歯科大学附属歯科専門学校 衛生士科 卒業
東京都 医療法人社団 JINAI 仁愛歯科クリニック 勤務
2010年 大阪府 医療法人 A&D 文の里歯科クリニック 勤務
2014年 茨城県 けやき歯科クリニック 勤務
2015年 日本顕微鏡歯科学会 認定衛生士 取得

日本顕微鏡歯科学会 認定衛生士
日本臨床歯周病学会 会員
東京 SJCD 会員